

和歌山県立自然博物館所蔵のカニ類標本（永井コレクション）の  
分類学的研究Ⅲ 日本新記録種（3）

丸村眞弘・武田正倫

帝京平成大学紀要  
第23巻 第1号

2012年3月

池袋キャンパス

## 和歌山県立自然博物館所蔵のカニ類標本（永井コレクション）の 分類学的研究 III. 日本新記録種（3）

丸村真弘<sup>1)</sup>・武田正倫<sup>2)</sup>

1) 〒646-0024 和歌山県田辺市学園1-88 和歌山県立南紀高等学校

E-mail: mmarumura@ares.eonet.ne.jp

2) 〒170-8445 東京都豊島区東池袋2-51-4 帝京平成大学 現代ライフ学部

E-mail: takeda-m@thu.ac.jp

## Taxonomic Studies on the Crabs of the Nagai Collection preserved in the Wakayama Prefectural Museum of Natural History III. Species New to Japan (3)

MARUMURA Masahiro<sup>1)</sup> and TAKEDA Masatsune<sup>2)</sup>

1) Nanki High School, 1-88 Gakuen, Tanabe, Wakayama, 646-0024 Japan

2) Faculty of Modern Life, Teikyo Heisei University, 2-51-4 Higashi-Ikebukuro,

Toshima-ku, Tokyo, 170-8445 Japan

### Abstract

In the third report of serial papers, four species of crabs in the Nagai Collection of Wakayama Prefectural Museum of Natural History are recorded as new to the carcinological fauna of Japan. They are *Oxypleurodon luzonicum* (Rathbun, 1916) of the Epialtidae (Cape Shionomisaki, Kii Peninsula, central Japan, ca. 210m deep), *Leptopisa australis* Griffin & Tranter, 1986 (Cape Shionomisaki, ca. 40m deep) of the Majidae, *Pseudocryptocoeloma symmetrinudus* Edmondson, 1951 (Kuroshima I. and Yakahijima I., Ryukyu Is., shallow water) of the Pilumnidae and *Parapalicus trispiralis* Castro, 2000 of the Palicidae (Kuroshima I., 220-250m deep).

**Keywords** : Crabs, Nagai Collection, *Oxypleurodon*, *Leptopisa*, *Pseudocryptocoeloma*, *Parapalicus*, Kii Peninsula, Ryukyu Islands, Japan.

### はじめに

筆者らは、2002年から、和歌山県立自然博物館に保管されているカニ類標本（永井コレクション）の整理及び同定、コレクション目録の作成（丸村、

小坂，2003）を実施し、その後日本新記録種の報告（丸村，武田，2004，2009）、新種の記載（Takeda & Marumura，2010）を行ってきた。今回は日本新記録種の報告の第3報として、4種のカニ類について報告する。

種の記載

モガニ科 Epialtidae

*Oxypleurodon luzonicum* (Rathbun, 1916)

ヨツバイボガニ (新称)

(Fig. 1A)

*Sphenocarcinus luzonicus* Rathbun, 1916, p. 519; Estampador, 1937, p. 552; Estampador, 1959, p.112; Griffin, 1976, p. 211, fig.11a; Serène & Vadon, 1981, p. 124, pl. 4E; Guinot & Richer de Forges, 1986a, p. 138, figs. 19A, B, 21C, D, pl. 8 figs. A-F; Guinot & Richer de Forges, 1986b, p.29; Richer de Forges, 1992, p. 4.

*Rochinia luzonica*: Griffin & Tranter, 1986a, p. 180; Tavares, 1991, p. 161; Webber & Richer de Forges, 1995, p. 514.

*Oxypleurodon luzonicus*: Richer de Forges, 1995, p. 48, fig. 1B, pl. 2A.

*Oxypleurodon luzonicum*: Ng & Richer de Forges, 2007, p. 63; Ng *et al.*, 2008, p. 105 (In list); Richer de Forges & Poore, 2008, p. 64, fig. 1a; Richer de Forges & Ng, 2009, p. 248.

**形態の記載**：甲はほぼ縦長三角形で、額棘が基部から左右に大きくV字形に分岐する。甲面には短い剛毛で覆われた平たい疣状隆起が17個あるが、小さい6個が甲の側面にあるため、背面から見ることはできるものは11個である。眼域、肝域、鰓域の2個の各隆起は左右対称である。中胃域のものは縦長の楕円形、心域のものはほぼ円形、腸域のものは後縁に沿ってあり、弓状で細長い。胃域の疣状隆起の前方に1個と心域の疣状隆起の両側に各1個の小さいこぶがある。疣状隆起の間の深い溝は短い剛毛で密に覆われる。鉗脚はほぼ歩脚と同じ太さで、第1歩脚より短い。各節は円筒形に近く形で短い剛毛で覆われ、長節と腕節の上縁がわずかに板状を呈する。歩脚も円筒形で、上縁が板状にならず、短い剛毛で覆われる。各歩脚の腕節の上面には1本の溝が走る。

**備考**：Richer de Forges & Ng (2009)によると、イボガニ属 *Oxypleurodon* に含まれるのは23種である。しかし、Richer de Forges (2010) はインド洋西部のモザンビーク沖産の1新種を記載するとともに、額角が先端部を除いて左右接している *Nasutocarcinus* Tavares, 1991をイボガニ属のシノニムとした。したがって、*Nasutocarcinus* 属から移籍される4種を含めてイボガニ属の既知種は28種である。本種は *O. stuckiae* Guinot & Richer de Forges, 1985及び *O. lowryi*

Richer de Forges, 1992、*O. karubar* Richer de Forges, 1995、*O. wilsoni* Richer de Forges & Poore, 2008に近縁であるが、本種と *O. stuckiae* は本種が眼上縁の疣状隆起が大きくて前方に尖り (*stuckiae* では小さくて、丸い棒状)、鰓域前方の疣状隆起が側方に尖る (*stuckiae* では丸くて尖らない) などの点で異なる。また、本種と *O. lowryi* では本種の甲の形が縦長の三角形であり (*lowryi* では円形に近い)、眼窩上縁の疣状隆起が前方に尖る (*lowryi* では側方に向かって鋭く尖る) などの点で異なる。本種と *O. karubar* では本種の疣状隆起が眼窩後縁から肝域にかけてL字形につながっていて (*karubar* ではつながらず、3つの部分に分かれる)、中胃域と心域の疣状隆起が大きく (*karubar* ではこの2つの疣状隆起が小さい)、額棘の開度が大きい (*karubar* では額棘の開度が小さい) などの点で異なる。さらに、本種と *O. wilsoni* では眼上縁の疣状隆起が前方に丸く尖り (*wilsoni* は前方に鋭く尖る)、肝域の疣状隆起が平坦で (*wilsoni* は中央が隆起し、尖る)、鰓域後方の疣状隆起が短く、側方に尖る (*wilsoni* では長くて上方に反り返る) などの点で区別できる。

**分布**：フィリピンとオーストラリアの北西部海域から知られている。

**検討標本**：雌1個体 (額棘を除く甲長15.9mm, 額棘の長さは7.7mm, 甲幅13.3mm)、和歌山県串本町潮岬沖水深210m、1994年6月19日 (WMNH-Na-Cr 1267)。

ケアシガニ科 Majidae

*Leptopisa australis* Griffin & Tranter, 1986

ミナミイソクズモドキ (新称)

(Fig. 1B)

*Leptopisa australis* Griffin & Tranter, 1986, p. 272, figs. 100a-e, 107e, 112h; Ng *et al.*, 2008, p. 110 (In list).

**形態の記載**：甲は縦に長い楕円形で、甲面は疎らに短毛で覆われ、低いこぶと浅い溝で分画され、弱く甲域に分かれる。2本の額棘は細長く、甲長の約1/5の長さで、基部から先端近くまで互いに接していて、先端近くでわずかに上方に反り返りながら分岐する。眼上板は幅広く、その側縁は弱くくぼみ、眼窩前歯は大きくて上方を向く。眼窩後歯も小さいが、鋭く尖る。眼柄は太くて短く、滑らかで、角膜部が大きい。肝域には3個の小顆粒がある。外鰓域には顕著な1歯があり、その前方に2個の低いこぶがある。胃域は弱く盛

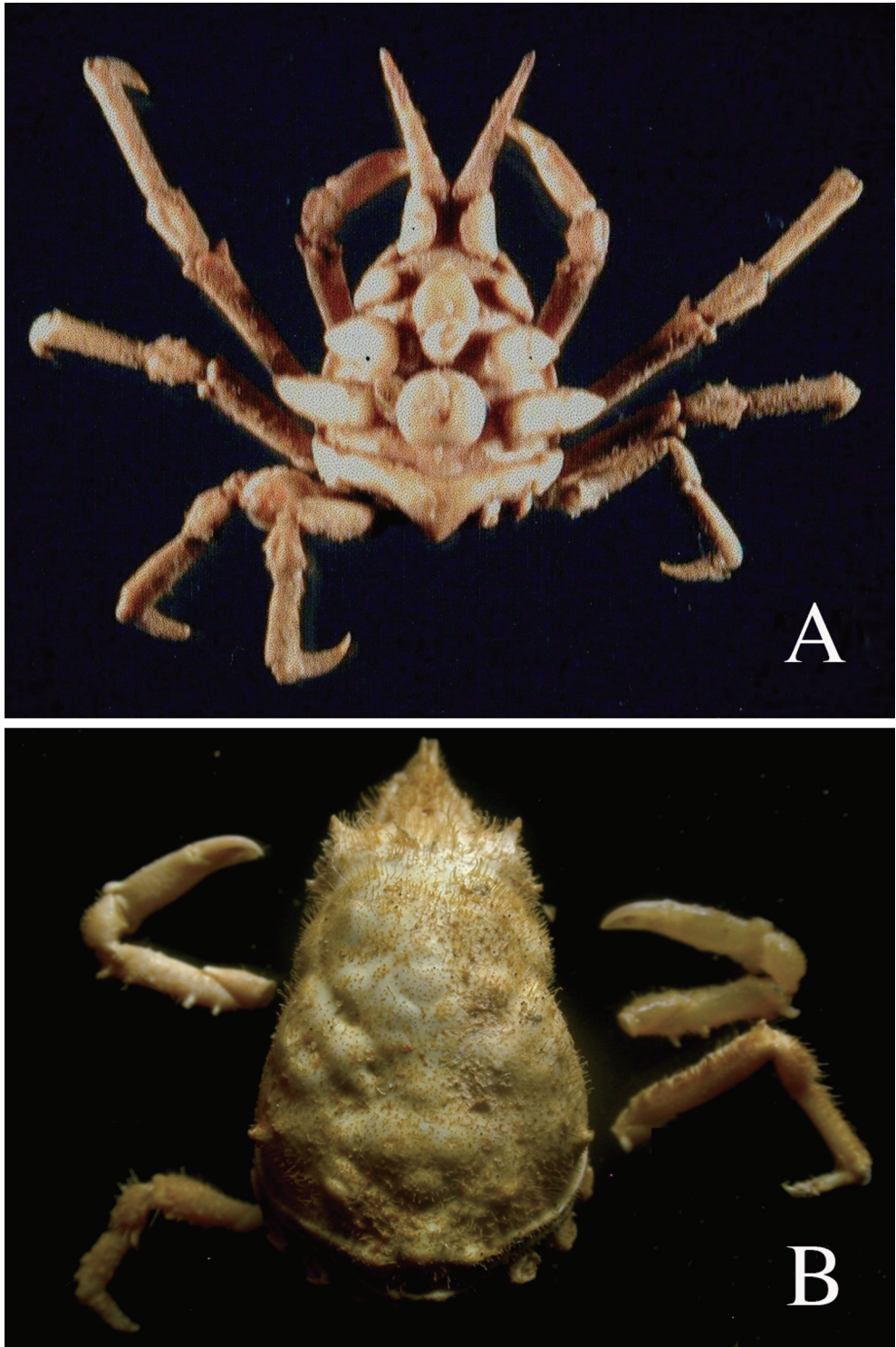


図1. ヨツバイボガニ (A) とミナミイソクズモドキ (B). (保存標本)

Fig.1. *Oxypleurodon luzunicum* (Rathbun) (A) and *Leptopisa australis* Griffin & Tranter (B).  
(Preserved specimens)

り上がり、表面には目立たない丸くて低いこぶがある。後胃域はくぼんで、1個の丸くて低いこぶがある。心域には前に2個、後ろに1個の非常に丸くて低いこぶがある。腸域には中央に1個の小さいこぶがある。後縁には中央に3個の小さいこぶをもつ狭い稜がある。前鰓域の側縁には3個の小顆粒が並ぶ2本の稜がある。

第2触角の基節は幅広く、ほぼ四角形を呈し、滑らかで、中央に浅い縦溝がある。前側角に1小棘があり、側縁は完縁である。触角腺の開口部近くに1小歯がある。頬部には数個の小顆粒がある。第3顎脚は長節の前末角が適度に膨らみ、中央の窪みは浅い。座節の内方の前側縁は丸く膨らむ。

鉗脚は長節上縁の末端近くに1歯、基部近くに2歯があり、下縁には末端に1小歯、中ほどに3小歯がある。腕節の上縁には3、4個の顆粒があり、内角に顕著な1歯がある。掌部は扁平されて滑らかで、長さは幅の約2倍である。指部は掌部の約半分ほどの長さで、雌では両指間が幅広く開かず、不動指と可動指の咬合縁に短毛が生え、10個ほどの歯が列生する。歩脚は円筒形で、第1歩脚の長節上縁には2、3個の小歯があり、短毛がまばらに列生する。雌の腹部は6節からなり、表面は滑らかである。

**備考:** Ng *et al.* (2008)によれば、イソクズモドキ属 *Leptopisa* は世界で3種知られる。*L. setirostris* (Stimpson, 1871)では、額棘が甲長の約1/2で、また、第2触角の基節の前縁に2本の棘があるため、本種とは異なる。古くから日本産として知られるイソクズモドキ *L. nipponensis* Sakai, 1938では鉗脚と歩脚が滑らかで、歯や棘をもたないことで区別される。

**分布:** 現在までに、原記載でインドネシアのフローレス海、スラウェシ(セレベス)島、フィリピンのスル諸島から記録されているが、その後の記録がない。

**検討標本:** 雌1個体(額棘を除く甲長11.3mm, 甲幅7.5mm)、和歌山県串本町潮岬沖水深40m, 1983年6月(WMNH-Na-Cr 0422)。

## ケブカガニ科 Pilumnidae

### *Pseudocryptocoeloma symmetrinudus*

Edmondson, 1951

サモアタコガニ(新称)

(Figs. 2A, 3, 4)

*Pseudocryptocoeloma symmetrinudus* Edmondson, 1951, p. 233, fig. 34a-d; Ng *et al.*, 2008, p. 144 (In list).

*Lophoplax symmetrinudus*: Takeda & Kurata, 1984, p. 201.

**形態の記載:** 甲は横に長い六角形で、背面は左右対称に配置された無毛の平滑な胼胝状の隆起部以外は柔毛で覆われる。深赤色の胼胝状の隆起部は甲面に8個あり、額域から胃域にかけて縦に長く平行に各1個、眼窩上縁から前側縁に平行に斜めに向かって各1個、前胃域から鰓域にかけて横に長く各1個、後縁に平行に横に長く各1個配置される。額は丸く、長毛で縁取られ、中央の小さな切れ込みで2葉に分けられる。前側縁は後側縁より短く、眼窩外歯を含めて、幅広い小顆粒で覆われた低い3歯からなるが、柔毛で縁取られ隠れている。第2触角基節は眼窩内にあり、第2触角は大きい。第3顎脚は顆粒と短毛で覆われ、口腔を完全に塞いでいる。座節はほぼ縦長の長方形、長節はほぼ横長の長方形で、中央部には顆粒も短毛もない滑らかな溝が縦走する。左右両鉗脚は大きさがほぼ等しい。長節は外面及び内面が平滑で、上縁が毛で縁取られる。腕節はまばらに小顆粒で覆われ、外面が密に長毛で覆われる。内角末端には鈍頭の1歯がある。掌部の上面は小顆粒と短毛で密に覆われる。外面は小顆粒と長毛で密に覆われる。不動指は扁平されて、先端が鋭く尖り、外面が小顆粒と長毛及び短毛で覆われる。可動指は不動指より長く、内方及び下方に強く湾曲して、外面が小顆粒と長毛及び短毛で覆われる。咬合縁には6~7個の鈍歯が並ぶ。歩脚は密に長毛及び短毛で覆われる。雄の腹部は図4Cのような7節からなる。雄の第1腹肢(交尾器)は図4A, Bのように細長く、先端で湾曲して、鋭く尖る。

**備考:** Ng *et al.* (2008)によれば、現在、*Pseudocryptocoeloma* 属に含まれるのは本種とオーストラリアクイーズランド州のリンデマン島から記載された *P. parvus* Ward, 1936の2種である。*P. parvus* では甲の背面の無毛で平滑な隆起部が幅広く、中央部と後部に1個ずつ配置されているが、本種では特徴的な細長い左右対称の深赤色の胼胝状の隆起部を8個もつので、容易に区別できる。

本種はEdmondson (1951)によってオウギガニ科 Xanthidae の1種として新種記載されたが、本種の所属するメクラガニ亜科 Rhizopinae がエンコウガニ科 Goneplacidae に移されたため、エンコウガニ科に移籍された。さらに Takeda & Kurata (1984) によって *Pseudocryptocoeloma* 属からタコガニ属 *Lophoplax* に移された。しかし、Ng (1987) によって、メク

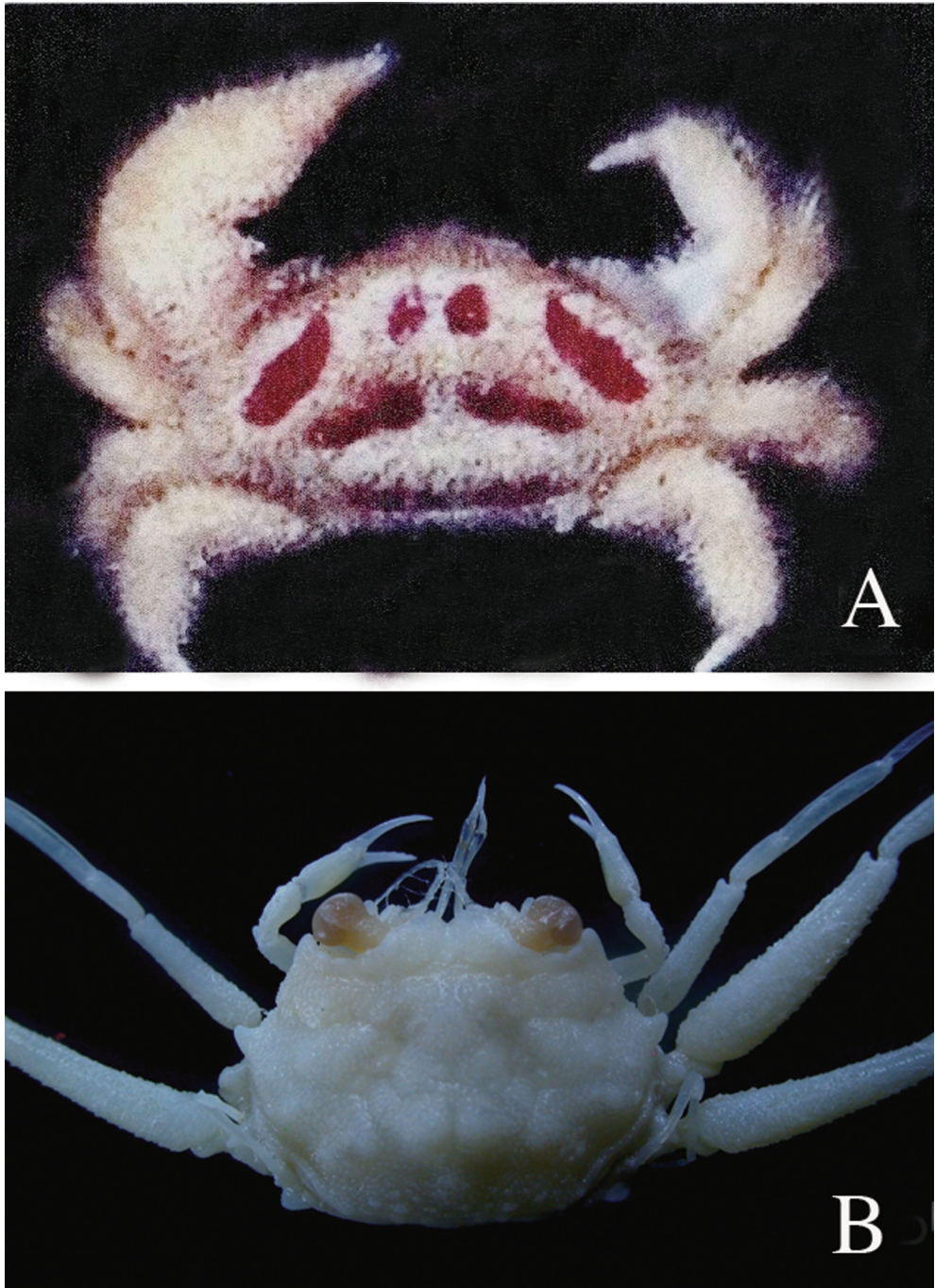


図2. サモアタコガニ (A) とミナミアシボソイトアシガニ (B).

Fig.2. *Pseudocryptocoeloma symmetrinudus* Edmondson (A) and *Parapalicus trispiralis* Castro.



図3. サモアタコガニ. 背面 (A) と腹面 (B). (保存標本)

Fig.3. *Pseudocrystcoeloma symmetrinudus* Edmondson. A, B, habitus in dorsal (A) and ventral (B) views. (Preserved specimen)

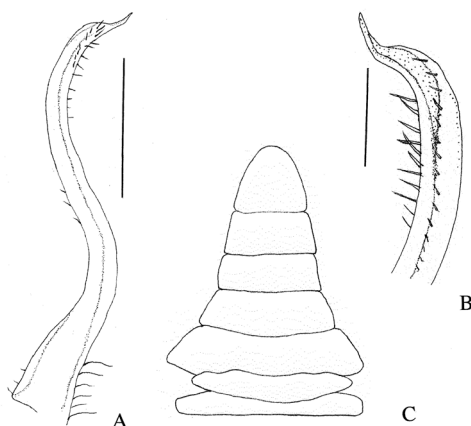


図4. サモアタコガニ. A, B, オスの右第1腹肢 (A, 背面図; B, 腹面図); C, 腹部. スケールは1 mm (A), 0.5 mm (B).

Fig.4. *Pseudocryptocoeloma symmetrinudus* Edmondson. A, B, right first pleopod of male in dorsal (A) and ventral view (B); C, .abdomen (hairs removed). Scales are 1 mm for A and 0.5 mm for B.

ラガニ亜科がケブカガニ科 Pilumnidae に移籍され、*Pseudocryptocoeloma* 属と *Heteropilumnus* 属との違いが甲の形が長方形か正方形かの違いのみであるとのことで、雄の腹部及び第一腹肢が明らかになるまでという条件付きで、再び *Pseudocryptocoeloma* 属に戻された。

**分布：**現在までに、南太平洋上のサモア諸島沖の浅海で雄1個体のみ記録されて以来、記録がない。

**検討標本：**雄1個体（甲長7.1mm, 甲幅9.3mm）、琉球列島黒島仲本、1987年8月17日；雄1個体（甲長5.9mm, 甲幅7.7mm）、屋嘉比島サンゴ礁原、1994年4月26日（WMNH-Na-Cr 1268）。

### イトアシガニ科 Palicidae

#### *Parapalicus trispiralis* Castro, 2000

ミナミアシナガイトアシガニ（新称）

(Figs. 2B, 5)

*Parapalicus trispiralis* Castro, 2000, p. 513, fig. 27a-f.

**形態の記載：**甲はほぼ横に長い六角形で、前側縁の後端には小顆粒で覆われた三角形の1小歯がある。甲の背面は小顆粒で覆われ、低い疣状突起が左右対称に配置され、浅い溝で甲域に分かれる。原胃域に各1個、中胃域に3個、後胃域に各1個、前鰓域に各1個、中鰓域に各1個、後鰓域に各1個の大小の疣状突起があるが、後胃域の2個が最も大きく顕著である。背面から見ると後縁の左右に見える胸甲板突起（Episternal process）は鈍頭の三角形状を呈する。甲の後縁には先端の丸い6個の疣状顆粒が列生する。額

は中央の幅広い溝によって、広い2葉に分かれ、前中央で鈍頭の2小歯となる。額葉から眼窩上縁に至る側縁は丸い。眼窩上縁は3つの切れ込みで小さい2葉に分かれ、眼窩下縁は大きい内歯と非常に小さい外歯からなり、その間は幅広いV字型ないしはL字型の切れ込みで隔てられる。眼窩外歯は小さい鈍歯状を呈する。眼の角膜部は背面及び腹面が平たくなり、眼柄の基部より遥かに幅広い。眼柄の末端には2個の低い小顆粒がある。第2触角の基節は末端で小さく膨れ、わずかに尖る。鞭状部は長く、基部の2節に長毛が生える。第3顎脚の座節の内縁は板状を呈し、原記載では曲がりくねるとされているが、本標本ではほぼ直線的である。表面は小顆粒で覆われ、前縁の内角は丸く弧を描く。長節はほぼ逆台形状で、座節よりも幅も長さも小さく、前縁の外方1/2が丸く膨らみ、さらに末端近くで前方に細長く突出する。

鉗脚は左右でほぼ大きさが等しい。長節は細長く、外面が尖った小歯で覆われる。腕節は短く、外面が低い平たい顆粒で覆われる。掌部の上縁はピノキユラーで確認できるような小顆粒で覆われる。指部の咬合縁には先端から1/3ぐらいの所に4、5個の鈍歯が列生する。歩脚は前方の3対が非常に細長く、長さは第2歩脚、第3歩脚、第1歩脚の順で長い。長節は円筒形で、上面及び下面が同様の平たい小顆粒で覆われ、前縁先端には外方を向く鈍頭の1歯がある。第1歩脚から第3歩脚までの腕節・前節・指節の前縁及び後縁は薄板状を呈し、完縁で、目立った顆粒は見られない。本標本では第2歩脚と第3歩脚の前節及び指節の前縁のみが羽状毛で縁取られる。第4歩脚は非常に細く



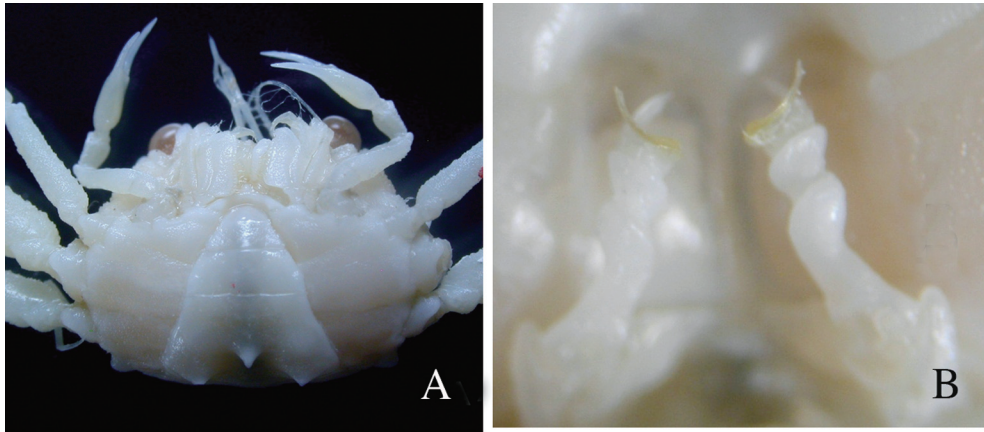


図5. ミナミアシナガイトアシガニ (♂). A, 腹面; B, 第1腹肢.

Fig.5. *Parapalicus trispiralis* Castro. A, carapace in ventral view; B, male first pleopods in ventral view.

て、短い。長節、腕節及び前節は全面をビノキュラーで確認できるような平たい微小顆粒で覆われる。指節も前縁の基部よりの1/2は同様の顆粒で覆われ、それより先端は滑らかである。後縁の中央には鋭く尖る微細な1小棘があり、先端も細くて鋭く尖る。雄の腹部は図5Aのようにほぼ三角形を呈し、第3節から第5節が融合している。第3節には2個の顕著な三角形の突起が左右に並び、第4節には中央に鋭く尖る1個の大きな突起がある。雄の第1腹肢は腹部側からみると、図5Bのようなコイルを三回巻いたような特徴的ならせん形で、先端が2叉し、各先端が牙のように鋭く尖る。

**備考:** Castro (2000)によれば、現在 *Parapalicus* 属に含まれるのは13種である。本種は雄の腹部の特徴的な形状により *P. ambonensis* Moosa & Serène, 1981 に近縁であるが、鉗脚の掌部背面がビノキュラー下で確認できる程度の微小な顆粒で覆われ (*ambonensis* では掌部背面の基部近くに肉眼で見える2個の突起がある)、眼窩下縁の大きい内歯と小さい外歯が幅広いV字型ないしはL字型の切れ込みで隔てられ (*ambonensis* では狭いV字型の切れ込みで隔てられる)、雄の第1腹肢が特徴的な3回巻いたコイルのようなならせん形をしている (*ambonensis* では1回巻いたならせん形)などの点で区別される。

**分布:** フィリピンのルソン島沖の南シナ海とオーストラリア北東のサンゴ海のロイヤルティ島から雄1個体、雌1個体の記録があるが、その後記録がない。

**検討標本:** 雄1個体 (甲長6.1mm, 甲幅7.1mm)、琉

球列島黒島南東沖水深220~250m、1989年3月15日 (WMNH-Na-Cr 1269)。

#### 引用文献

- Castro, P. (2000): Crustacea Decapoda: A revision of the Indo-west Pacific species of palicid crabs (Brachyura Palicidae). In: A. Crosnier (ed.), Résultats des campagnes MUSORSTOM, Volume 21. *Mémoires du Muséum national d'Histoire naturelle*, Paris, **184**: 437-610.
- Edmondson, C.H. (1951): Some central Pacific crustaceans. *Occasional Papers of Bernice P. Bishop Museum*, **20**: 201-241.
- Estampador, E. P. (1937): A check list of Philippine crustacean decapods. *Philippine Journal of Science*, **62**: 465-559.
- Estampador, E. P. (1959): Revised check list of Philippine crustacean decapods. *Natural and Applied Science Bulletin*, **17**: 1-127.
- Griffin, D.J.G. (1976): Spider crabs of the family Majidae (Crustacea: Brachyura) from the Philippine Islands. *Journal of Natural History*, **10**: 179-222.
- Griffin, D.J.G. & Tranter, H. H. (1986): The Decapoda Brachyura of the Siboga Expedition. Part III. Majidae. *Siboga Expédition*, **39**: 1-335.
- Guinot, D. & Richer de Forges, B. (1986a): Crustacé

- Décapodes: Majidae (genres *Platymaia*, *Cyrtomaia*, *Pleistacantha*, *Sphenocarcinus* et *Naxiodes*). In: Résultats des Campagnes MUSORSTOM 1 and 2. *Mémoires du Muséum national d'Histoire naturelle*, Paris, ser. A (Zoology), **133**: 83-178.
- Guinot, D. & Richer de Forges, B. (1986b): Découverte d'une nouvelle espèce de *Sphenocarcinus* en Nouvelle-Calédonie, *S. mammatus* sp. nov. (Crustacea, Decapoda, Brachyura). *Indo-Malayan Zoology*, **3**: 27-37.
- 丸村眞弘, 小坂 晃 (2003): 永井誠二コレクション カニ類標本目録. 和歌山自然博物館, 74 pp.
- 丸村眞弘, 武田正倫 (2004): 和歌山県立自然博物館所蔵のカニ類標本（永井コレクション）の分類学的研究 I. 日本新記録種 (1). 南紀生物, **46**: 93-99.
- 丸村眞弘, 武田正倫 (2009): 同上, II. 日本新記録種 (2). 南紀生物, **51**: 75-80.
- Ng, P. K. L. (1987): The Indo-Pacific Pilumnidae II. A revision of the genus *Rhizopa* Stimpson, 1858, and the status of the Rhizopinae Stimpson, 1858 (Crustacea, Decapoda, Brachyura). *Indo-Malayan Zoology*, **4**: 69-111.
- Ng, P. K. L. & Richer de Forges, B. (2007): A new species of deep-water spider crab of genus *Rochinia* A. Milne Edwards 1875, from Guam (Crustacea: Brachyura: Majidae). *Zootaxa*, 1610: 61-68.
- Ng, P. K. L., Guinot, D. & Davie, P. J. F. (2008): Systema Brachyurum; Part I. An annotated checklist of extant brachyuran crabs of the world. *The Raffles Bulletin of Zoology*, **17**: 1-286.
- Rathbun, M. J. (1916): New species of crabs of the family Inachidae and Pathenopidae. In: Scientific results of the Philippine cruise of fisheries "Albatross", 1907-1910. No.34. *Proceedings of United States National Museum*, **50**: 527-559.
- Richer de Forges, B. (1992): A new species of *Sphenocarcinus* A. Milne Edwards, 1875 from Tasmanid guyots, *S. lowryi* n. sp. (Crustacea, Decapoda, Brachyura). *Records of the Australian Museum*, **44**: 1-5.
- Richer de Forges, B. (1995): New findings and new species of deep-sea majids of the genus *Oxypleurodon* Miers, 1886. *Crustaceana*, **68**: 43-60.
- Richer de Forges, B. (2010): Majoid crabs from the Mozambique Channel with the description of a new species of *Oxypleurodon* Miers, 1886 (Decapoda, Brachyura). In: C. H. J. M. Fransen, S. de Grave & P. K. L. Ng (eds.), Studies on Malacostraca: Lipke Bijdeley Holthuis Memorial Volume. *Crustaceana Monographs*, **14**: 645-653.
- Richer de Forges, B. & Ng, P. K. L. (2009): On the majoid genera *Oxypleurodon* Miers, 1886 and *Sphenocarcinus* A. Milne Edwards, 1875 (Crustacea: Brachyura: Epialtidae), with descriptions of two new genera and new species. *The Raffles Bulletin of Zoology*, **20**: 247-266.
- Richer de Forges, B. & Poore, G. (2008): Deep-sea majoid crabs of the genera *Oxypleurodon* and *Rochinia* (Crustacea: Dacapoda: Epialtidae) from the continental margin of Western Australia. *Memoirs du the Museum of Victoria*, **65**: 63-70.
- Serène, R. & Vadon, R. (1981): Crustacés Décapodes: Brachyours. Liste préliminaire, description de formes nouvelles et remarques taxonomiques. In: Résultats des Campagnes MUSORSTOM, 1. Philippines (18-29 mars 1976). *Mémoires ORSTOM*, **91**: 117-140
- Takeda, M. & Kurata, Y. (1984): Crabs of the Ogasawara Islands VII. Third report on the species obtained from stomachs of fishes. *Bulletin of the National Science Museum*, Tokyo, ser. A, **10**: 197-202.
- Takeda, M. & Marumura, M. (2010): Spider crabs of the genus *Huenia* De Haan, 1837 (Crustacea, Decapoda, Brachyura) from Japan, with descriptions of two new species. *Bulletin of the National Museum of Nature and Science*, Tokyo, ser. A, **36**: 39-48.
- Ward, M. (1936): Crustacea Brachyura from the coasts of Queensland. *Memoir of Queensland Museum*, **11**: 1-13.
- Webber, W.R. & Richer de Forges, B. (1995): Deep sea Majidae (Decapoda: Brachyura) new to New Zealand with a description of *Oxypleurodon wanganella* sp. nov. *Journal of the Royal Society of New Zealand*, **25**: 501-516.

